

北小岩の 補助283号線拡幅計画を審査 40年前の計画、27年度に着手と

「建設委員会傍聴記」

平成24年1月19日（木）午後1時半から建設委員会が開かれました。JR小岩駅周辺の区画整理事業の審査に続いて、補助283号線拡幅問題の審査が行なわれました。概要をお知らせします。

◇

新村委員（生活者ネット） 道路（283号線）は昭和41年に都市計画決定されたものですね。

土木部 そうだ。平成27年度までに着手する。平成16年度に第3次事業化計画が作成された。道路だけでなく区画整理なども含む。第3次は12年間の計画だ。

新村委員 優先道路とは何か。

土木部 道路としてのネットワークの強化。他の事業（面的な街づくり）との同じタイミングで災害から守る。

新村委員 今後、見直しはあるか。

土木部 これまでの計画で全て着手できなかつたものもある。進まなかつた原因は何か、検証は今後進める。

新村委員 北小岩は区画整理の対象でないし、道路もきちんとしている。一部をスーパー堤防化した場合、その左右に越水の可能性があると思うが。

土木部 完成した部分と他の部分と比べ、危ないとの認識はない。

新村委員 両側が低ければ水は行く。市川南はハザードマップで浸水地区とされている。できる所からやる、という考えはおかしい。

土木部 スーパー堤防は超過洪水対策。重点地区の39億円の予算は把握していない。

新村委員 北小岩にスーパー堤防は必要ない。道路拡幅の必要もない。

土木部 出来る所からやる努力は必要。道路は街の骨格としても必要だ。

小侯委員（共産） 283号線は必要な道路なのか。検証しているのか。40年

前の計画をそのまま引き継ぐのか。
土木部 40年前、区の人口は低かつた。人口が増え、住宅が増えた結果、改めて見直す時期に来ている。

小侯委員 高齢化で街の状況、脱車社会で道路も変わっていく。検証もせずに計画を進めるのはおかしい。スーパー堤防は人口密集地では行なわれていない。

土木部 24年度予算がつかなかったのは残念だが、河川構造物の耐震化を昨年から5カ年計画で実施している。スーパー堤防は止めるとは言えない。大変だからやるべき、と考えている。

小侯委員 昭和24年のキティー台風以降、全てが内水氾濫だ。内水氾濫の対策は。

土木部 公共下水道の整備がある。ゲリラ豪雨対策も色々な手段で対応したい。
小侯委員 江戸川右岸は0m地帯ではない。荒川左岸こそ急ぐべきだ。

土木部 区民の生命、財産を守るのは当然だ。どういう形で守るかが問題なのだ。

田島委員長（自民） 本日は継続とする。

2月建設委員会のお知らせ

2月の建設委員会は2月15日（水）午前9時より行なわれます。今回の訴訟を受けての委員会です。ぜひご参加ください。

